

授業シラバス

詳細情報

2011-3010000325-01

科目名「クラス名」(サブタイトル)	期別	単位数	開講年次
環境経済学	後期	2	3
担当教員 今泉 博国			

概要

温暖化や酸性雨等に代表される地球環境問題（グローバルな問題）、土壌汚染や水質汚濁等の地域環境問題等、今日、厳しく深刻な問題が山積している。これらの問題を将来世代に先送りしないため、早急な解決策が求められている現在、「環境税」や「排出権取引」のように経済メカニズムを活用することでこのような問題の解決を図ろうとする手法が、やっと国民的関心事になってきている。そもそも、環境と経済は密接に関連しているのだ。

本講義では、現実には生起している諸問題を題材に取り上げ、環境問題に対し、経済学がどのような役割を演じているかを平易に解説していきたい。

受講にあたり、授業計画のテーマに従ってテキストをあらかじめ読んできてほしいし、講義の都度配付するプリントでの復習をきちんと行ってほしい。

到達目標

- ・環境と経済の関係を理解できる。
- ・環境問題へ関心を高め、新聞等でさらに調査することができる。
- ・環境問題に対する経済的手段の有効性を説明することができる。

成績評価基準および方法

定期試験のほかに、講義の理解度合いをチェックするために中間試験を実施する。これらと講義中の平常点を考慮した上で、総合的な評価を下す。評価割合はおおむね、定期試験で60%、中間試験・平常点で40%とする。

テキスト

時政 勲・藪田 雅弘・今泉 博国・有吉 範敏編『環境と資源の経済学』（現代経済学のコアシリーズ）勁草書房、2007年

参考書

植田和弘『環境経済学』 ISBN 400045768
 加藤尚武『新環境倫理学のすすめ』
 諸富徹『環境税の理論と実際』 ISBN 4641160910
 上で与えた参考書のほかに以下のような文献に目を通すこともすすめる。
 岡敏弘著『厚生経済学と環境政策』岩波書店
 柴田弘文著『環境経済学』東洋経済新報社
 田中廣滋編『費用便益の経済学的分析』中大出版会

履修上の留意点

概要で与えたように、環境問題は我々の身近に山積している。それらに対し皆さんはどれ程の問題意識を有しているか。

この講義が目指すものは単なる知識の教授だけではなく、皆さんが有する問題意識を更に大きく膨らませてもらうことにある。強い問題意識をもった上で履修してもらいたい。

授業計画

- 1 環境問題とは？
-環境問題と経済学-
- 2 市場経済と外部性
- 3 環境政策の目標と手段
- 4 環境政策と経済的手段
- 5 環境政策の主体
- 6 環境の価値を測る
- 7 環境の価値を測る
- 8 環境問題と倫理
- 9 経済発展と環境保全
- 10 中間試験
- 11 温暖化問題
- 12 廃棄物問題
- 13 地域の時代と観光
- エコツーリズムの展開 -
- 14 コモンプールと地域環境
- 15 まとめ